

タンポポの花茎の奇形

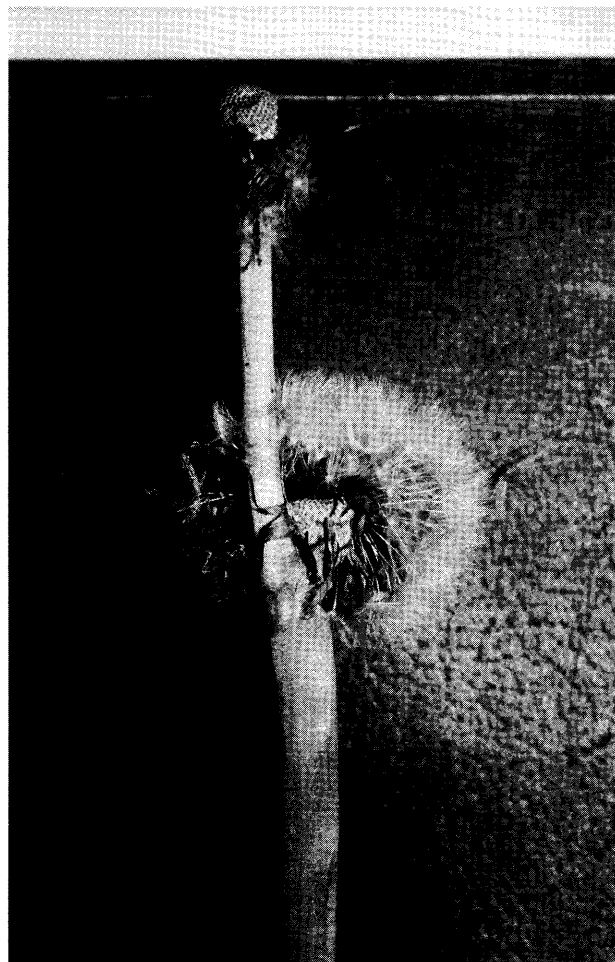
櫻井 幸枝

平成19年5月24日、長岡市内の自宅庭にてかわった花茎のタンポポを見つけた。タンポポの頭花は、株の根元から伸びる一本の茎に1つ付くのが一般的に見かける姿である。ところが、このタンポポは、茎の途中にも頭花がひとつ付いている。

最初は帯化現象かと考えたが、タンポポの花に見られる帯化は、茎が帯状になり、頭花がぐにゃぐにゃと不規則に大きくなる姿をしたものを写真で見たことがあるので、これとは異なった現象のようである。このタンポポの場合は、途中についた頭花より下の茎は、それより上の茎に比べて太くなっているため、太くなった部分は茎が2本分くっついたとも考えられる。

タンポポの頭花(つぼみ)は、株の根元に1~複数個形成され、次々と咲くが、先に伸張した茎(頭花が頂生している方の茎)と、その後伸びだした茎(頭花が途中になっている茎)が何かの理由でくっついた可能性を考えた。

すでに結実しており総苞片を見ることはできなかったが、タンポポの種類はおそらくセイヨウタンポポと思う。



ヒノキバヤドリギの寄生

石沢 進

ヒノキバヤドリギの生育に関する情報が、新潟日報(2008年7月23日)で報道された(添付記事参照)。記者の取材の際に、その分布や寄主植物などに関して詳細に説明したのに、間違いがあったり、その内容について十分掲載されていないので、補足しておきたい。

ヒノキバヤドリギは、ツバキ以外の次の植物60種以上にも寄生することが報告されている。

ブナ科(シイ)；ヤマグルマ科(ヤマグルマ《トリモチ》)；クスノキ科(クスノキ、ヤブニッケイ、ハマビワ、タブノキ、シロガモ)；バラ科(カマツカ、ニワメ、イクリ、サクラ(sp.))；マンサク科(イソノキ)ミカン科(ユズ、ミカン)；トウダイグサ科(ヒメスズリハ)；ツゲ科(ツゲ)；ウルシ科(ハゼノキ)；モチノキ科(イヌツゲ、モチノキ、タマシヅキ、ナメキ、ソコ、クワ《ネチ》)；カエデ科(ヤマモシロ)；ニシキギ科(コマミ、マキ、モクセイ)；ホルトノキ科(ホルトノキ、コハンモチ)；ツバキ科(ツバキ、ヤブツバキ、ササノカ、ハマヒサギ、ヒサギ、ササキ、モッコク、チャ)；グミ科(アキミ、ナツソイ

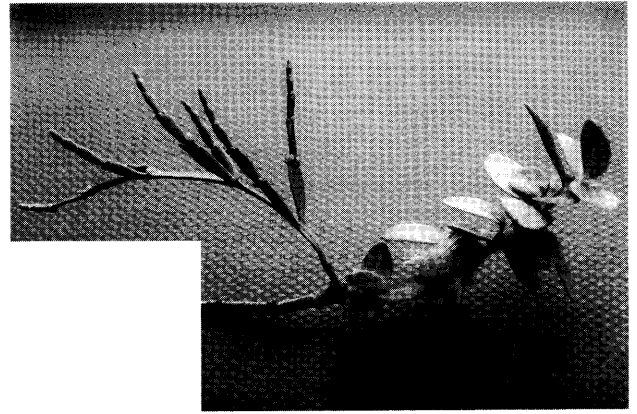
ゴ)；ザクロ科(ザクロ)；フトモモ科(アゲク)；ツツジ科(ネジキ、アセビ、ミツハツツジ、ヤマツツジ、オンツツジ、ツクシカツツジ、シヤヤンホ、スノキ)；カキノキ科(クロキ)；ハイノキ科(ミミスハイ、シロハイ、ハイノキ、クハノキ、カンザブ《ロウキ》)；ヒイラギ科(ネズミモチ、ハジヨウホ《タ、キンモクセイ、ヒイラギ《モクセイ、ヒラキ》)；キョウチクトウ科(テイカスラ)；スイカズラ科(コツバ《ネツギ》、スイカスラ)

新潟日報の記事では、ツバキの下のツゲにも寄生していると記されているが、ツゲではなく、イヌツゲである(取材当日寄生したイヌツゲの枝を持参；写真参照)。

同種の分布については、北陸金沢のヒノキバヤドリギが記されているが、自然の樹林の中ではなくて、庭に植栽された植木であること記されている(里見 1989)。新潟の場合も金沢と類似した状況であるので、苗木の生産地で寄生したものを新潟に運ばれたとみられる。明らかに人為的に導入されたと推定される植物を「県内希少種」と位置づけることにも抵抗がある。県内には、観賞用などで持ち込まれた種が、野生状態で発見されることも多い。そのような場合に「県内希少種」と表現することは妥当でなかろう。

文 献

- 長野菊次郎 (1895) 「ヒノキバヤドリギ」ノ寄生. 植物学雑誌 9 (106) : 463-464
- 檜山庫三 (1952) 野草 18 (9) : 1-2.
- 越智一男・里見信生 (1953) 北陸の植物 2 (3) : 49-51.
- 里見信生 (1964) ヒノキバヤドリギの追記 北陸の植物 3 (2) : 49-50.
- 里見信生 (1989) 北陸のヒノキバヤドリギ 植物地理. 分類研究 37 (1) : 64.



ヒノキバヤドリギがイヌツケ (園芸種) に寄生 (08 8 / 22)

(日刊) 新潟日報

2008年(平成20年)7月23日(水曜日)

県内総合

宿り木もチエツクイン

宿り木が宿るホテルの木。新潟市中央区の新潟グランドホテルの敷地内のツバキに、東日本では自生しない「宿り木」が寄生しているのが見つかった。専門家は「県内で確認されるのは珍しい」と指摘している。

新潟の ホテル

同市の積雪地域植物研究所の石沢進所長(左)によると、これはヒノキバヤドリギ。「関東地方より北で確認された報告などほ聞いたことがない。鳥を介した寄

県内希少種 ツバキに寄生

生は考えにくく、種のついは二十年前に植栽したが、た苗木が西日本から持ち込まれたのでしようと話す。ラウンジから信濃川を眺めホテルによると、ツバキは二十年前に植栽したが、暖な地域の植物だが、温暖化の影響で新潟でも繁殖を拡大する可能性がある」としている。



ツバキの木の所々に寄生するヒノキバヤドリギ。葉は退化し、幹が葉のように見える。新潟市中央区下大川前通3

った。ツバキの木の下のツゲにも寄生が見つかり、二十年かけて少しずつ増殖したとみられる。

石沢所長は「もともと温